

ゲンロン カオス\*ラウンジ 新芸術校  
グループ A 展示「ホンヂスイジャク」開催のお知らせ



2019年9月から12月まで、毎月、新芸術校受講生による新しいグループ展を五反田アトリエにて開催。  
9月14日（土）には第1弾となるグループAの展示「ホンヂスイジャク」がオープン。  
キービジュアルデザインは受講生の青息による。

### （1）概要

2019年9月14日より22日まで、東京・五反田のゲンロンカオス\*ラウンジ五反田アトリエにて、ゲンロンカオス\*ラウンジ新芸術校第5期生グループ展、グループA「ホンヂスイジャク」展を開催いたします。新芸術校第5期生のうち通常課程6名の作家と、コレクティブリーダー課程の1名がキュレーターとなり、展覧会を作り上げます。

皆様のご来場をお待ちしております。

9月21日（土）にはゲスト講師に榎木野衣氏をお迎えし、講評会を開催いたします。

ゲンロンカオス\*ラウンジ新芸術校では、2017年度よりカリキュラムにグループ展を取り入れています。毎年秋から冬にかけての4ヶ月、受講生が4つのグループに分かれて展示を作ります。

今期では、これまでの「通常課程」に加え、新たにキュレーションに軸を置いた「コレクティブリーダー課程（CL課程）」も新設し、批評家・黒瀬陽平主任講師の指導のもと、CL課程の生徒がグループ展のキュレーションを行います。

展示には毎回、ゲスト講師をお招きして講評会を実施し、その模様はニコニコ生放送のゲンロン完全中継チャンネルにて無料生中継します。生中継では、受講生＝作家による作品の解説のほか、講師のみなさんによる作品の評価、展示の総評などを放送します。ゲスト講師には榎木野衣氏、飴

屋法水氏、八谷和彦氏、宇川直宏氏をお招きします。一部例外として、今回の講評会では、アトリエでの中継のみ行います。

4回のグループ展は最終講評会への選考も兼ねており、これらの展示で卓越した力を発揮した受講生数名は、2020年2月にゲンロンカフェで行われる最終講評会に出品することができます。

ゲンロンカオス\*ラウンジ新芸術校は思想家・東浩紀が創業した株式会社ゲンロンが2015年に立ち上げたアートスクールです。美術批評家の黒瀬陽平氏を主任講師に、会田誠氏、榎木野衣氏、岡田利規氏、宮台真司氏ら、多彩なゲスト講師をお迎えして、美大とは異なる形で美術家を育成してきました。第1期の最終講評会で優秀賞を受けた弓指寛治氏は、第21回岡本太郎現代芸術賞(2018年2月)において銀賞に当たる岡本敏子賞を受賞、第2期優秀賞の磯村暖氏は台湾やロンドン、タイなど、国際的に活躍の場を広げています。第3期優秀賞の新井健氏は、2018年秋にワタリウム美術館地下のギャラリー、オン・サンデーズで個展「OUTTA STEP」を開催。第4期優秀賞の青木美紅は「あいちトリエンナーレ2019」への出品も果たしています。ほかにも、中央本線画廊を運営する秋山佑太氏ら、新芸術校出身の作家たちは活躍の場を広げています。

## (2) 展示概要

### 【グループA】ホンヂスイジャク

参加作家 菊谷達史 / 平山匠 / 三浦かおり / 茂木瑤 / 山崎千尋 / ユウキユキ

キュレーション 海老名あつみ (CL 課程) キュレーションサポート: 鴻 知佳子 (CL 課程)

デザイン 青息

展示期間 2019年9月14日(土) ~ 9月22日(日)

※9月21日(土)は講評のため終日休廊となります。

会場 ゲンロンカオス\*ラウンジ 五反田アトリエ

〒141-0022 東京都品川区東五反田 3-17-4 糟谷ビル 2F Tel: 03-5422-7085

開廊時間 15:00-20:00

website <https://genron-cafe.jp/event/20190921/>

講評会日時 2019年9月21日 14:15~17:30 ※会場参加は受講生のみとなります。

講評会ゲスト講師 榎木野衣氏

アトリエ中継 URL <https://live.nicovideo.jp/watch/lv321828131>

## 展示ステートメント

### やがてくる廃仏毀釈のために

妖怪が現代日本を徘徊している、単純化という妖怪が。

\*

これほどまでにシンプルな時代はあったであろうか。

ポピュリズムは世界を席卷し、左派・右派を問わず、複雑な問題をさも簡単に解決できるかのように喧伝するデマゴグがあとをたたない。

結果として、彼らの存在そのものがより世界を不安定にし、事態を悪化させるのだから世話は無い。

一方で、自由と多様性をめぐる言説も混沌としている。

これらを尊ぶと称する人々のうちどれほどが、自分の価値観から遠く離れた存在でもダイバーシティのもと許容する覚悟があるだろうか。

排除された側が、別の場面では排除を行う側であったという事例も記憶に新しい。

\*

結局、私たちはカール・シュミットの呪縛から逃れられないのだろうか。  
世界は友と敵のいずれかであるというシンプルな二分法がやはり人間の本性なのか。  
友でもない敵でもない中途半端な存在が傍にいることに耐えられないのか。  
無論、人間には認知能力の限界がある。  
ゆえに、物事を定義し類型化することで、我々は自らの認識の生産性を向上させてきた。  
他方で、そうした営みは代償として世界における余白の捨象を強いる。  
「家族」の再定義がその解決の糸口になるという。  
他方、家族を抑圧的な存在としてしか認識できない者は、その「家族」という言葉の使い方に躊躇いを表明している。  
こうした振る舞いが拙いと割り切ることは簡単である。  
しかし、誰も日々目の当たりになっている現実という重力からその思考が逃れられない存在である以上、こうした不器用さにも最後まで寄り添いたいのだ。

\*

思い出してみたい。  
かつて仏教が伝来した際、当初こそ土着の信仰との対立が生じたが、その後、仏教と古来の祭祀体系は混淆しつつ、ともに完全に融合することはなく一定の独立性と緊張感を抱えたまま社会に浸透していった。  
そこでは仏を本地、神を垂迹とするという、要は土着の神は実は仏が姿を変えたに過ぎない同一の存在であるというアクロバティックな転回によって、現実の複雑さをその世界観に取り込んでいったのである。  
この本地垂迹という世界認識こそ今日の私たちを隘路から解放する示唆となりうるはずだ。  
そして、芸術が果たすべき役割はこうした世界認識の確立を支援することではないだろうか。  
世界を多様なまま切り取って、余剰部分をも人々が負担なく、かつ深く認知できるものとして表現していく、そのような役割。  
現代は、廃仏毀釈にも似た野蛮が再燃しうる岐路に立っている。  
こうした状況下において、分断を乗り越え、硬直化された思考を解きほぐし、成熟の回路へといざなうのが芸術の最も大きな存在意義であろう。本展はそんなきっかけになりたい。

(CL 課程：海老名あつみ)

### (3) ゲンロン カオス\*ラウンジ 新芸術校第5期最終講評会予定

実施日 2020年2月29日(土)

審査員 岩淵貞哉氏・田中功起氏・和多利浩一氏・黒瀬陽平氏

### (4) 主催、協力、お問い合わせなど

主催 株式会社ゲンロン 協力 合同会社カオスラ

新芸術校公式サイト <http://school.genron.co.jp/gcls>

新芸術校公式フェイスブック <https://www.facebook.com/genrongcls>

新芸術校公式ハッシュタグ #新芸術校

お問い合わせ E-mail: [info@genron.co.jp](mailto:info@genron.co.jp) Tel: 03-6417-9230 (担当小宮)